

緑 楠

佐賀北高等学校全日制 学校だより第3号
令和4(2022)年5月13日(金)【本年度の重点目標】
信頼されるチーム佐賀北

3月 美術部 壁画アートについて

3月26日(土)・27日(日)の二日間、本校美術部員7名で嬉野にお住まいの藤川さん宅を訪ね、ご自宅にある生簀(いけす)の壁に絵を描きました。藤川さんはお子さんが本校の卒業生で、地域の方や子供たちの散歩コースにある生簀の壁を飾ることで見る人に楽しんでほしいという思いから、本校美術部に絵を描いてほしいと依頼されました。

そこで私たちは生簀で飼われている活発な鯉の様子を正面に、側面には家族思いの藤川さんのご希望により四人のお孫さんの似顔絵を描きました。

初日は朝からあいにくの雨となり、かっぱを着て濡れながら作業しました。雨で絵の具が流れてしまうため、たいへん苦戦しましたが、夕方には大まかな作業を終えました。二日目は効率的にできるように全員で業務を割り振り、本格的に作業を進めました。作業中、地域の方から差し入れや、「楽しみにしているよ」などと声援をいただき、大いに私たちのモチベーションにつながりました。

嬉野の方々に喜んでもらえる制作体験は、私たち美術部員にとってたいへん貴重なものになりました。
(美術部長 於保なのは)



令和4年度佐賀県強化拠点校指定証交付式

令和4年度佐賀県強化拠点校指定証交付式が4月22日(金)、本校応接室にて行われました。各部の代表が県スポーツ課の担当の方からそれぞれ指定証を受け取り、決意を新たにしたいようです。



指定証贈呈(バスケットボール部男子)



左より陸上部女子、バスケットボール部女子、同男子、新体操部、空手道部

1年5組 中村 太河くん インタビュー

入学式からまだ日の浅い4月中旬、「新入生がクライミングの九州大会で入賞した」との一報が入りました。そこで、調べたところ、1年5組の中村 太河くん(東原庫舎西溪校出身)が4月16日に熊本県で行われた九州大会で2位になったとのことでした。そこで、ご本人にインタビューし、詳しい話を伺いました。

総務「緑楠」担当(以下、「緑」):クライミングは競技として何年くらい続けていますか?

中村 太河くん(以下、「中村」):小学校3年の時から、7年です。

緑:小学生の頃から続けられているんですね。クライミングを始めたきっかけを教えてください。

中村:自宅の近くに多久高校があり、クライミングのウォールが見えていたので、やってみようようになり、始めました。

緑:では、多久高校で教えてもらっているんですね。活動は週に何回くらいですか?

中村:週5ですね。

緑:なるほど、平日は学校の終わった後に通っているんですね。では、中学校時代までも大きな大会で入賞された経験はありますか?

中村:はい、あります。

緑:ありがとうございます。ちなみに、今まででいちばんよかった成績と、その大会を教えてください。

中村:三重国体(2021[令和3]年、つまり中学3年時)の九州ブロック大会の少年男子の部で一位になりました。

緑:それはすばらしい成績ですね。ちなみに、「クライミング」と「ボルダリング」はどう違うのですか?

中村:「クライミング」の中の「ボルダリング」です。「ボルダリング」は高さ5m以下の人工壁に、スタートからゴール(TOP)までに平均7手ほどのハンドホールドを使った課題をどれほど多く登れたかで競いますが、僕が取り組んでいる「リード」という競技は高さ5m以下の人工壁に設置されたルート(課題)を、ロープを使ってどこまで高く登れたかで競います。ルートは最低でも全長15m・幅3mあり、使われるホールド数もハンドホールドだけで30~50個になります。

緑:わかりました。

では、今、高校1年生ですが、今後もこのクライミングというスポーツを続けていられると思いますが、目標や、「今後、この大会で、こんな活躍をしたい」等の具体的なイメージはありますか?

中村:2年後に佐賀県で国民スポーツ大会があるので、それに佐賀県代表として出場し優勝したいと思います。

緑:2年後というと高校3年生ですから、この北高に在学中ということになりますね。ぜひ優勝して、その勇姿をみなさんに見てもらえるようなご活躍を期待しています。今日はお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

中村:ありがとうございました。